

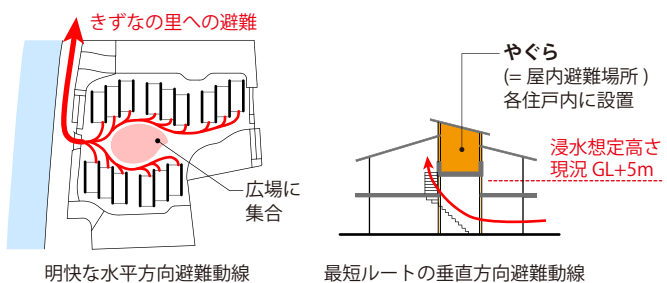
湯浦地区地域優良賃貸住宅整備についての提案

自然の厳しさから身を守り
自然の豊かさを享受する暮らし

①安全・安心を実感できる住環境の整備
家々が寄り添い合い、穏やかに暮らせる環境をつくります

・水害、土砂災害、台風など厳しい自然から暮らしの場を守るために、家々が寄り添いながら建ち、家や地形の起伏が広場空間を緩やかに囲むことで、穏やかに暮らせる環境を創出します。各住戸の玄関を広場側とすることで、災害時の避難ルートが明快になります。

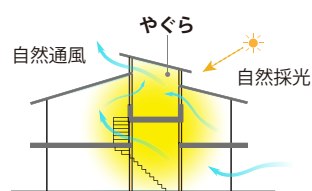
・各住戸に「やぐら」(=屋内避難場所)を設けます。床レベルを浸水想定高さ以上とし、玄関からの動線を明快かつ最短ルートとすることで、緊急時の避難をスムーズにします。「やぐら」は日常的には居室として使われ、防災を視覚化、習慣化することで、居住者の防災意識を高めます。



②個性輝く活力と魅力にあふれた、創造的復興につながる住環境の整備
「やぐら」が創造的復興のシンボルとなります

「やぐら」には3つの役割があります。

- ・防災
屋内避難場所であり、安全の象徴となる。
- ・環境装置
自然エネルギーを享受する環境装置となる。
- ・暮らしのシンボル
多様な居場所をつくり、暮らしに活力をもたらします。



③周辺の豊かな環境とコミュニティ創出に配慮した住環境の整備
広場が多世代間の交流を生み出します

- ・まちとつながる広場空間
広場は家々に囲まれつつ通り抜けができ、周辺の温泉やみかん畑、水路など、まちへとつながっていくことで、湯浦地区に人の流れを創出します。
- ・交流ひろば・原っぱ・路地
緩やかに雁行する家並みがつくる広場や路地が、屋外に多様な居場所をもたらし、人が集い出会う場となります。災害時にも集まりやすく、居住者同士の互助の意識を高めます。
- ・やわらかい境界
「前庭」や「玄関土間」を広場側につくり、居住者間の交流のきっかけとなるような「やわらかい境界」とします。

④県産木材を積極的に活用した住環境の整備
・流通材を使用し、シンプルで美しい木造架構をつくります。
・構造現しとし、県産木材に包まれた温もりのある内部空間を実現します。

⑤ユニバーサルデザイン・環境・省エネ・コスト
・環境装置としての「やぐら」が、自然エネルギーを最大限活用し、環境負荷を低減、ランニングコストを削減します。

ユニバーサルデザイン →2 ページ目に記載
環境計画・省エネ・コスト →4 ページ目に記載

■山と川をつなぐ広場空間が、まちへと連続し、湯浦地区に人の流れを創出します。



■各住戸が広場を守るように緩やかに囲み、「交流ひろば」から「原っぱ」、みかん山の丘まで見通すことができます。



■湯浦川の流に平行した住戸群、山々に呼応する屋根の連なり、シンボルである「やぐら」が、新しい風景をつくります。



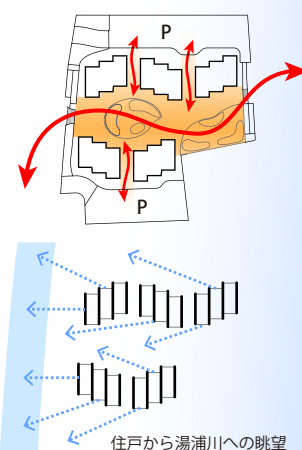
※GL= 現況地盤面レベル

南北方向断面図 S=1/400

全体配置についての提案

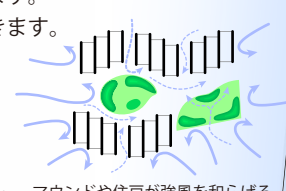
■緩やかに雁行する家並みが広場空間をつくり、コミュニティを育む。

- ・長屋形式の住戸が緩やかに雁行しながら、「交流ひろば」や「原っぱ」を囲み、外部から守られた安心感のある環境をつくります。
- ・3住戸1棟を基本形とし、計5棟の分棟配置とすることで、各棟間に広場空間と駐車場をつなぐ「路地」をつくります。
- ・各住戸は雁行することで独立性が生まれ、縁側のある「前庭」と「広い玄関土間」を設け、広場に開かれ居住者同士の交流のきっかけとなる「やわらかい境界」をつくります。
- ・各住戸がずれることで、すべての住戸から湯浦川への眺望を確保します。
- ・駐車場は各住戸に近接するよう、敷地北側と南側に集約し、明確な歩車分離とし、住戸にアクセスしやすい配置とします。
- ・駐車場側には勝手口を設け、利便性を高めます。



■ランドスケープ：厳しい自然から守り、穏やかな環境をつくる。

- ・夏季の強い日差しと暑さ、雨量の多さと地下水位の高さ、川に沿って吹く潮風や強風などの敷地特徴を踏まえ、常緑樹や柑橘類を中心に、この場所に適した植栽を選定します。
- ・マウンドが柔らかく広場を囲むことで、強風を和らげ、穏やかな環境をつくります。
- ・マウンドは大人の目線が通る高さとし、安心して子供たちを遊ばせることができます。
- ・防風、防犯、プライバシー確保に効果的な植栽配置とし、「交流ひろば」、「原っぱ」など、人が集う外部空間や住戸内部に安心感をもたらします。
- ・「交流ひろば」、「原っぱ」は乾燥に強い芝生とし、子供が遊びやすくすると同時にメンテナンスにも配慮します。また地表面温度の上昇を抑えます。
- ・1mの高上げ高さを利用した雨水排水計画とし、自然色の透水性舗装を施します。マウンドや住戸が強風を和らげる。



■起伏のある地形が流れと変化を生み、様々な居場所をつくります。

- ・住戸に囲まれた「交流ひろば」は緩やかなマウンドや砂場を設け、親子連れの乳幼児が集いやすく親密感のある広場とします。
- ・南側に開いた日当たりの良い「原っぱ」は、子供たちが走り回ったり、ボール遊びができる場所となります。マウンドによる起伏と流れのある地形が、子供の遊びに対する想像力を喚起します。



「交流ひろば」。マウンドが囲むことで安心感のあるこどもの遊び場となり、住戸とのバッファーにもなる。



南側に開いた日当たりの良い「原っぱ」。住戸のずれとマウンドが広場空間に流れを与える。



■ユニバーサルデザイン

- ・敷地中央の広場空間による見通しの確保、南北駐車場との歩車分離、路地による敷地の回遊性など、明快な配置計画とすることで心理面のバリアフリー化を図ります。
- ・西側のメインエントランスと東側エントランスには、1mの高低差を解消する1/20勾配の緩いスロープを設け、ベビーカーや車いす、高齢者がアクセスしやすい設えとします。
- ・敷地内では段差をなくし、ベビーカー等の通行に支障がないよう配慮します。
- ・外構の床材は防滑性のある素材とします。
- ・各住戸の玄関には広くゆったりとした土間を設け、ベビーカーや遊具、車いすなど、玄関回りの荷物が重い子育て世帯や高齢者世帯に配慮した計画とします。

平面計画についての提案

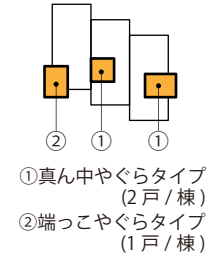
■暮らしのシンボルとなる「やぐら」をつくります。

「やぐら」は光や風、視線の抜けなどの開放感をもたらし、様々な居場所を生み出します。家族と一緒に過ごす時も一人で過ごす時も、お互いの気配を感じながら、自由な距離感で暮らすことができる環境をつくります。



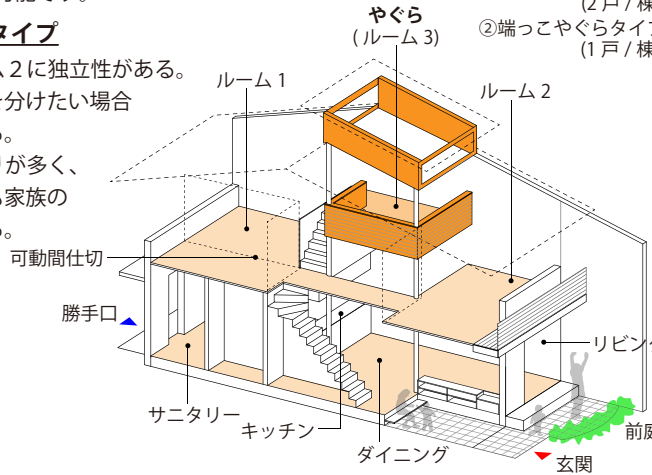
■「やぐら」が生活の幅を広げます。

「やぐら」は屋内避難場所であると同時に、日常的には居室(ルーム3)であり、寝室、子供部屋、家族団楽、書斎など多様な使われ方をします。「やぐら」は真ん中に位置するタイプと端っこに位置するタイプの2種類があり、居住者の家族構成や生活スタイルに合わせて選択することが可能です。



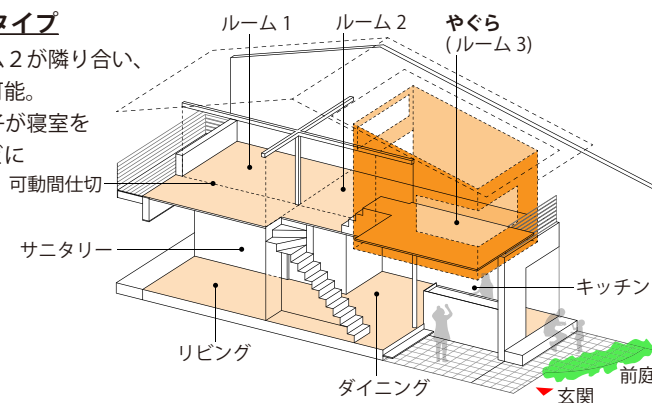
①真ん中やぐらタイプ

- ・ルーム1とルーム2に独立性がある。親と子供で部屋を分けたい場合などに向いている。
- ・上下階のつながりが多く、家のどこにいても家族の気配を感じられる。



②端っこやぐらタイプ

- ・ルーム1とルーム2が隣り合い、一体的な利用が可能。
- ・子供が小さく親子が寝室を共にする場合などに向いている。



■「前庭」と「広い玄関土間」が、やわらかい境界をつくります。

広場に面して、縁側のある「前庭」と広くゆったりとした「玄関土間」を設けます。住戸内部と外部の境界をやわらかくすることで、生活が外へとにじみ出し、子育て世帯がお互いに子供たちを見守りながら、安心して暮らせる環境をつくります。



■様々な家族構成に対応するフレキシブルな間取りとします。

間仕切り壁を極力なくし、可動間仕切りとすることでレイアウトの自由度を高め、家族人数や子供の成長に応じて、一体利用と分割利用の使い分けが可能となります。

■敷地環境や場所に依りて、各住戸に魅力的な違いを与えます。

北側3棟と南側2棟では採光条件が異なるため、基本形は保ちつつ間取りを変えることで、住戸によって優劣がない平面計画とします。西側の湯浦川や東側の山、路地に面するなど、場所によって異なる条件を住戸の間取りや開口部の開け方などに反映することで、各住戸を魅力的なものとしします。

■面積表

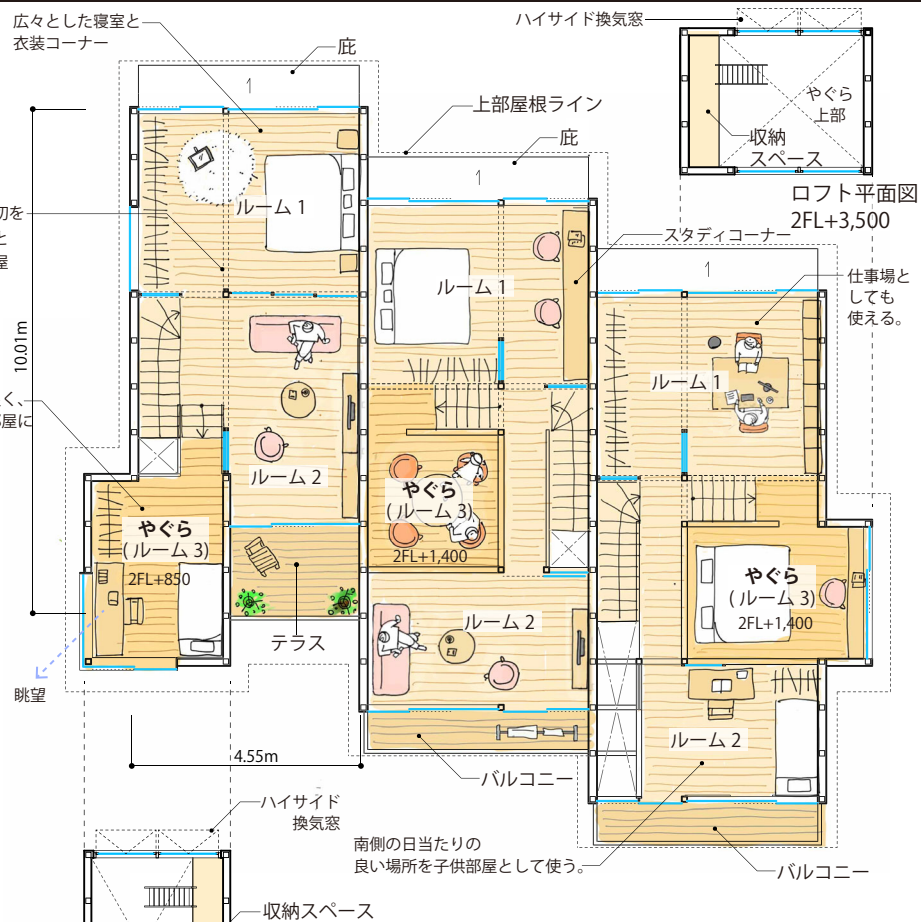
①真ん中やぐらタイプ ×10戸		②端っこやぐらタイプ ×5戸		計 15戸
1階	45.6㎡	1階	45.6㎡	
2階	42.3㎡	2階	44.8㎡	
計	87.9㎡/戸	計	90.4㎡/戸	
合計	879㎡		452㎡	



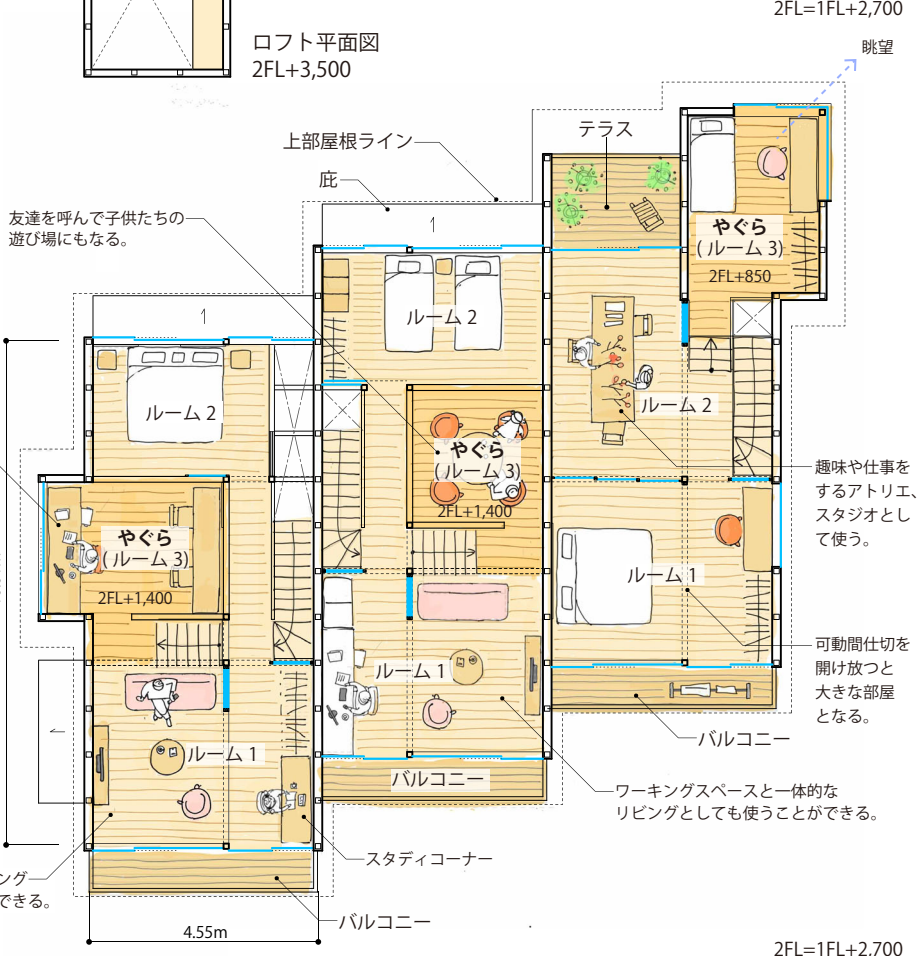
1階平面図(北側B棟) S=1/150



1階平面図(南側D棟) S=1/150



2階平面図(北側B棟) S=1/150



2階平面図(南側D棟) S=1/150

北3棟は住戸北側にサンタリーを配置
北2棟は日当たりのよい南側にリビング、広場に面した北側にキッチン配置

構造計画・木質化 / 環境・設備計画についての提案

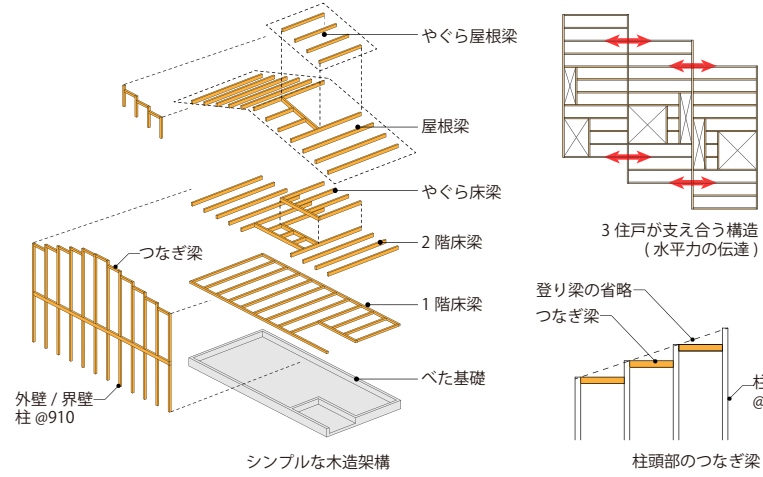
■シンプルで美しい木造架構をつくります。

- ・屋根勾配に沿って910mmピッチで梁を架け渡し、開放的でおらかな空間をつくります。
- ・スパンを抑えた木造軸組工法(在来工法)とすることで、県産製材を用いた施工しやすいシンプルな架構とします。
- ・高さが変化する長手方向の外壁 / 界壁の柱頭部をつなぎ梁とし、加工時間がかかる大断面の登り梁をなくすことでコスト削減を図ります。
- ・床は厚床構造用合板を使用することで、根太を省略し施工時間を減らします。
- ・特殊な金物を使用せず、地元の大工さんでも施工可能な構造とします。

■3つの住戸が支え合う、長屋形式を生かした構造とします。

雁行した3住戸が、東西(短手)方向の1、2階床梁、屋根梁によって水平力を伝達し合う、安定した木造架構とします。

▼最高高さ=GL+8,100
▼軒高=GL+7,830



■構造現しとし、最大限木質化をします。

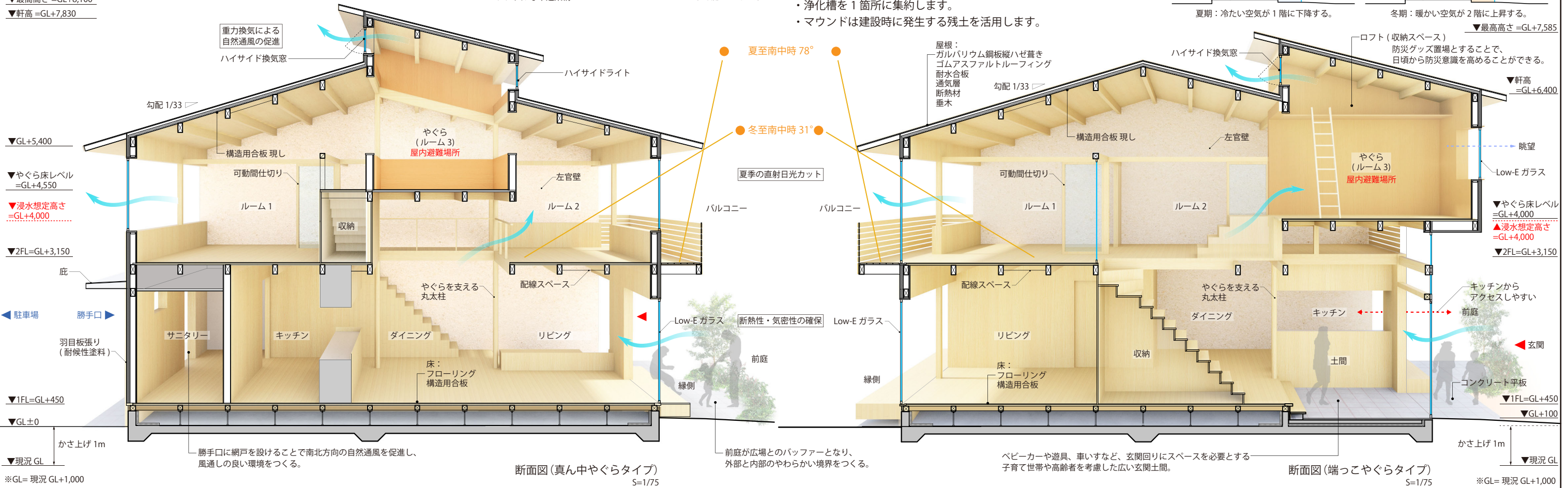
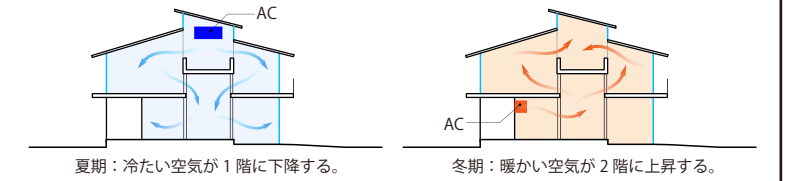
- ・シンプルな架構をそのまま見せることで、県産木材に包まれた温もりのある内部空間を実現します。
- ・床や間仕切り壁、建具、家具は、可能な限り町産の間伐材等を用いた仕上げとします。
- ・軒や庇が深く雨掛りとならない南北面の外壁には、羽目板等の県産木材を使用し、柔らかい表情のファサードをつくります。

■イニシャルコスト削減を図ります。

- ・構造現し表現とし、天井仕上げを極力なくします。
- ・可動間仕切りを用いた一体空間とすることで、間仕切り壁の面積を最小限にします。
- ・外装サッシは住宅用既製品を用い、通風や出入りのための開閉箇所を効率的に絞込みます。
- ・各住戸の水回り設備を1階にまとめて配置する計画とします。
- ・浄化槽を1箇所に集約します。
- ・マウンドは建設時に発生する残土を活用します。

■「やぐら」が環境装置となり、自然エネルギーを最大限活用します。

- ・「やぐら」上部の換気窓と吹抜を利用した重力換気によって自然換気を促進し、雁行した壁面がウインドキャッチャーとなり、室内に良風を取り込むことで、空調負荷の低減を図ります。
- ・「やぐら」のハイサイドライト、南北面開口による自然採光によって照明負荷を低減し、軒の深い庇やバルコニーによって直射日光をカットします。
- ・建物外皮は高い断熱性能を確保し、上下階の温度差を少なくすることで、冷暖房効率の向上を図り、ランニングコストを削減します。
- ・吹抜で緩やかにつながる一体空間とすることで、少数の家庭用エアコンでドラフト感のない穏やかな温熱環境をつくるのが可能です。



1階から広場側を見る。やぐら下の吹抜によって2階とつながり、開放的な空間となる。 2階からやぐらを見る。様々な方向に視線が抜け、広がりを感じる事ができる。 やぐらを見る。やぐらの存在によって住戸内部に様々な居場所が生まれる。 やぐらレベルから見る。ハイサイド換気窓によって自然換気を促し、光を導く。